

2019年度 地域連携活動報告書

連携先名称：全国農業協同組合連合会（JA 全農）

協定締結日：2018/7/10

活動状況：継続中

連携先窓口：不明

活動資金：※予算は計上されていない

担当教員（所属）：教授 篠原弘亮（農学科）

活動体制（単位）：学部

関連教員（所属）：准教授 平野繁（農学科）、准教授 高畑健（農学科）

活動目的：農学部選択科目「農業インターンシップ（二）」等の一環として、農業支援関連施設を見学して、農業関連企業・団体等の役割を学ぶ

活動内容・成果：

- 1) 令和元年 9 月 29 日 JA 全農営農技術センターを農学科植物病理学研究室 3 年生 29 名が見学
- 2) 令和 2 年 2 月 6 日 JA 全農営農儀重センターを農学部「農業インターンシップ（二）」の履修学生 17 名が見学

課題・改善点：特になし

2019年度 地域連携活動報告書

連携先名称：全国農業協同組合連合会(JA 全農)

協定締結日：2018/7/10

活動状況：継続中

連携先窓口：耕種総合対策部 営農・技術センター 農産物商品開発室

活動資金：大学予算

網走寒冷地農場プロジェクト予算

担当教員（所属）：吉田穂積（北方圏農学科）

活動体制（単位）：個人

活動目的：共同試験

活動内容・成果：

オホーツク地域における点滴灌水装置によるバレイショ生育と収量に及ぼす影響

全農において普及を進めている点滴灌水装置を用いて北海道網走地域におけるバレイショへの灌水による増収効果及び適応性を評価した。

【成果】

一方、点滴灌水による生育への影響は、「メイクイン」試験と「男爵」試験ともに促進する傾向がみられた。特に、「メイクイン」試験が「男爵」試験に比べて顕著であった。これは、灌水期間中の土壌水分含有量が「メイクイン」試験の灌水区が「男爵」試験に比べ高く推移していたことが原因ではないかと考えられた。さらに、点滴灌水による生育促進がみられたことより収量においても「メイクイン」では点滴灌水により収量増加が認められた。「男爵」では有意な差は認められなかったが大粒規格の塊茎が増加することが認められ点滴灌水による収量増加の可能性が示唆された。

一方、本試験結果から「メイクイン」試験および「男爵」試験のいずれの試験においてもジャガイモそうか病発病への点滴灌漑による影響は明らかでなかった。これは、いずれの試験においても無灌水区でのそうか病発病が低かったためにその影響を明らかにすることができなかったものと考えられた。

なお、これらの成果は東京農業大学網走寒冷地農場運営協議会及び令和元年度東京農業大学網走寒冷地農場年報「トウフツ」に報告予定である。

課題・改善点：

これらのことから本点滴灌水は、ジャガイモ生育と収量に効果を現すものと考えられた。また、本試験においてはジャガイモそうか病に対する防除効果は認められなかったが、これまでの試験結果では防除効果が認められたことから引き続き全農よりの支援を受け経年的試験を行う予定にしている。